

平成 24 年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(大紀町) の概要

9月6日(木)に大紀町錦みなとホールで「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、I SOMON[®](いそもんシックス)の皆さん6名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

- 錦は、昔は漁もたくさんあって、すごく活気があったが、最近は元気がなくなってきたので、このままではいけない、なんとかしなくてはということで、みんなでいろいろ工夫している。最近子どもたちの錦弁が変化してきたので、錦弁もきちんと残していきたい。
- アイデアがある人がやりたい活動ができるように、行政にもサポートしてほしいし、どうやったらサポートしてもらえるのかということをもっとわかりやすく説明してほしい。そういう窓口があればいいのではないかな。
- 行政に支援をお願いする際の書類は、なかなか一般の人には難しいので、もう少しわかりやすくしてほしい。また行政が決めた枠に入らなければ、認められないことが多いので、もう少し柔軟性があってもよいのではないかな。

行政のサポートによって、自分たちが何をしたいのかがハッキリしてきた。錦は、歴史が長いので、これまでの津波などの災害の記録もたくさんある。これらを紙芝居にして、どんどん増やして、活動を続けていきたい。

10年後には、もっと若い人が戻ってきて豊かな町にしたい。そのためには、企業を呼び込んで工場をつくるのではなく、元々錦にある一次産業をもっと若い人に受け入れてもらえるような漁業のあり方などについても、県から指導してほしい。



活動の紹介も兼ねて、メンバーがお気に入りの紙芝居を披露してもらいました。会場には、錦小学校の生徒の皆さんをはじめたくさんの方が集まっていただきました。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

行政への申請について、よりわかりやすく簡単に、柔軟な対応をしてほしいというご意見については、一方で、やはりみんなの税金を使うことなので、どのように使われるかについては、説明できるようにすることも大切なので、両方の観点で考えていきたい。

地域でなにかをやりたいけど、やり方がわからないという方には、皆さんが行政へつないでいただくような役割を果たしてもらおうのも一つの方法だと思う。

皆さんのお話を聞いて、本当に錦のことを愛しているということがわかり嬉しかった。いただいたご意見は、しっかり対応していきたい。



錦小学校の生徒の皆さんが知事をごもかえてくれました。

